（別紙4）　　令和3　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290400112		
法人名	社会福祉法人多伎の郷		
事業所名	グループホームはなんばの里（日々輝）		
所在地	島根県出雲市多伎町口田儀750番地		
自己評価作成日	令和3年12月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

この2年間、コロナ禍にあり、ご利用者とご家族、地域の関わりは希薄となりました。しかし、事業所内でご利用者の皆様に精一杯楽しんで過ごして頂けるよう、全職員が協力して行事や活動に力を入れてきました。面会できないご家族には、電話でお互いの元気な声を確認していただき安心して頂けるように努めました。接遇においても、毎月各ユニットで不適切であろうケアについて話し合い、改善できるように取り組んできました。その成果が現れ、スピーチロックのような対応はほぼなくなっています。職員一人ひとりがご利用者の人格や持てる能力を大切にし、笑顔で元気に過ごせるよう、チームワークを発揮しながらケアに取り組んでいます。職員も明るく笑顔の絶えない施設です。運営推進会議では、できるだけ多くのご意見をいただくようにしています。ご意見やご要望は職員に伝え、速やかに対応し、改善に努めています。褒めていただいたことは職員に伝え、モチベーションアップへと繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

田儀川とJR山陰線が交差し、日本海が望める国道沿いの風光明媚な地に開設16年目を迎えるホームはある。認知症を患っている普通の高齢者への介護としてのより良いありかたをめざして、やさしく、楽しくあたたかな雰囲気に満ちたホーム作りがなされてきた。中庭の芝生の上で日光浴しながらお茶会を楽しんだり、散歩したりなどの日常活動を支援している。時々行う利用者さん手作りの食事では、職員にサポートされながら、料理に勤しむ姿が見られる。重度化した利用者さんには、医療福祉の協力で看取りをしている。コロナ禍にあって、地域の祭りや行事が次々と中止になる中、ホームとして、利用者さんに少しでも楽しく過ごしてもらおうと季節の行事など様々に工夫しており、運営推進会議のメンバーとともに、社会福祉法人の理念でもある地域に密着した活動に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一つである家族や地域との交流に関しては積極的に行えていない。今年もコロナウイルスの影響で出入りが出来ず、施設内で行事を行い利用者の笑顔が見れるようにしている。	ホームの理念「家庭により近い・・その人らしさ・・安心・・力の発揮・・」は、目に付くようにホームの随所に掲げられており、ホーム長、職員は利用者さんの笑顔を理念の実践の証ととらえ、明るいホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に散歩に出かけている。コロナ禍で地域との行事は中止する事が多かったが、近所の方から野菜や調味料などを頂き、気にかけていただいている。	法人母体が、地域に根を張り、住民の信頼を得ていることから、地域との付き合いは良好であり、コロナ禍にあって、行事参加は自粛しているが、野菜の差し入れなど、日常的に、積極的な交流が図られている。障害福祉の事業所から掃除作業の人々も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会は行えていないが、近所の散歩などを通して地域の方に施設の存在や認知症の方への理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や要望は、朝礼や詰所会議で報告し改善策を話し合ったり、サービスの質の向上に向け、職員の意識統一に繋げている。	コロナ禍にあって、書面会議も多い中で、家族代表からの意見も活発に出されており、利用者さんがホームでの暮らしを豊かに過ごせるようにアイデアを提案している。外部からの参加者は、何か協力できることはないかと、サポートしたり、ホームの事業計画案などについても助言されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適時に市の担当部署に連絡するなどして困ったことなどを協議・検討し、問題点はその都度解決するなどしている。	市の担当職員とは顔の見える関係を築いており、いつでも相談することができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する事業所内研修を年2回実施しており、全職員が禁止行為など正しく理解できるように取り組んでいる。玄関の施錠については土地柄、安全確保のために全てを開放することは難しいが、外に出たい方には職員が付き添い、容易に出かけられるようにしている。	コミュニケーションの中での言葉使いや人間関係のあり方が、利用者の尊厳を傷つけたり、自由を奪うことがないよう、新人職員には研修を行い、また、ベテラン職員も常に意識できるようスーパービジョンを行っている。利用者さん方は、のびのびと、笑顔で過ごしておられ、笑い声が響いていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記に加え、毎月のユニット会議で1か月を振り返り、不適切なケアとして話し合っている。話し合いの中でストレス軽減や対応策等を考え、不適切なケアや虐待に繋がらないように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する事業所内研修は行っていないが、成年後見制度を活用されている利用者は在籍している。施設内外での研修に参加する機会を持つようにし、理解を深めることが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には入所案内に補足事項を書入れ、手紙を添え、入所の準備がスムーズにいくようにしている。また、いつでも問い合わせができるようにご家族の希望を伺い迅速に対応している。入所時には利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制等の実際等についても詳しく説明し、同意を得るようにしている。また、利用者やその家族が心配されていることなど伺い、いつでも相談いただけるよう話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には家庭通信やはなんばの里だよりにて利用者の様子を伝えている。面会時、常に問いかけ何でも言っていただけるような雰囲気作りうい心掛けている。出された意見や要望は職員で話し合い反映させている。コロナ禍で今年も家族会での話し合いや意見の聴取は出来ていない。	コロナ禍にあって、家族との面会が制限されているが、ワクチン接種後であれば面会可能など、世情に合わせて柔軟に対応している。職員とはいつでもいろいろなことを話し合こともできる。そこから、意見や提案もあり、ホームとして個別に対応している。面会に来られない家族については、家庭通信や電話などで、連絡を密にして、意見などを聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員から意見を聞くようにし、アイデアは実現可能になるようアドバイス等を行っている。	職員は、意見を言いやすい雰囲気であり、出された意見は採用して、まずやってみて、評価し合い、ケアや運営の改善、向上に向けて取り組んでいる。職員一人一人の個性や力量が活かされることで利用者さんの豊かな暮らしを支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員登用試験、資格取得の支援や取得後の昇給等により向上心を持って働けるように努めている。代表者は日頃より個々の職員の話しをよく聞き状況を把握するとともに、産業医として健康診断に基づいてのアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年もコロナ禍で研修に参加する機会が極端に少なかったが、施設内で必要に応じた研修をほぼ毎月行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で開催される研究発表会に毎年参加しているが、今年も開催されず参加出来なかった。コロナ禍で他の事業所と電話などで情報の交換をし、参考にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや不安を受け止め、生活状況を把握するように努めている。職員が本人に受け入れられるような関係作りに努め、焦らずゆっくりとケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族との関わりを重視し、利用者が安心した生活が送れるよう、また、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、ご家族に施設でどのように過ごして頂きたいか、何を継続していけばよいのか等伺うようにしている。他のサービスも問い合わせがあれば説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりが自信を持っている事、得意としていることを把握し、その場に応じて手伝っていただけることをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会制限があり、家庭通信や電話で本人の状況や変化を伝えている。会話が出来る方で抵抗のない方については電話で話をして頂き、ご家族が安心できるように努めている。本人を支えていく協力関係が築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり外出することが難しい時もあったが、制限緩和になった際はドライブや散歩に出かけた。	入居の際には、自宅訪問をし、利用者さんの生活エリアを把握している。ホームからいつでも自宅周辺に行ったり、今までの関係が保たれるよう援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や食事、茶話会を通じて、利用者同士が関わりを持つようにしている。毎日、話をすることで心身の状態や気分、感情の変化等を注意深く見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了時には、いつでも困りごとなどの相談や顔を見せに来て頂く様に声を掛けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の関わりや情報の中から好みを探っている。食事、水分、保清等、入所後に向上がみられた。	御本人だけでなく、ご家族からの聞き取りは熱心に行い、本人が表せない思いや、希望を汲み取るように常に気にかけている。利用者さんは、自然な表情で、自由に行動しており、管理されることのない、穏やかな暮らしができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りで生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等把握し、入所後も本人や家族から今までの暮らしをうかがうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事量、表情、身体の動き等を考慮している。一日の過ごし方を検討し、入浴や活動を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や詰所会議で担当職員や関わる職員で案件を話し合っている。また、期限を決めて評価し改善に努めている。	御本人や家族もともに、ニーズを話し合って、担当職員やケアマネージャーが介護計画を立てる。実践についても、常に介護計画と照らし合わせており、状況の変化に応じて、変更をおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の書き方の統一を図り改善を行った。問題点や不具合、トラブルの記載は多いが、気づきや工夫、良かった点に関しての記載が少なかった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じて通院往診など必要な支援は柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図り、多機能的に取り組めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源を活用した生活を支援することが出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を基本としており、体調の急変時には往診依頼などしている。良好な関係を築けており、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者さんは、希望する病院を受診することが出来る。家族との連絡も日常的に行われており、健康面や医療面、安全面についても安心度が高い。多岐町や大田市に協力医療機関があり、緊急時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定など、体調の変化、些細な表情の変化を見逃さないようにし、変化等気づいた事があれば看護師に報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を医療機関に提供し、家族と医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り指針」を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ている。利用者の状況に応じて家族と話し合いながら対応が出来ている。	ホームが終の棲家となれるような取り組みが行われている。看取りについての詳細なマニュアルを作成し、病気や怪我など、予測はつきにくいが、利用者毎の状況に応じて、柔軟な対応が可能である。看護師配置や協力医など法人母体の協力体制が大きな支えになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	詰所会議を利用して看護師により急変時を想定した初期対応の訓練を行った。救急救命法に基づいた訓練も法人内で検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防火災訓練を年2回行っている。また、詰所会議時に地震や水害時に的確に動けるようマニュアルの確認やBCPを作成し、内容の確認をした。	防災訓練は、裏山からの土石流を想定した訓練を含めて年2回行っている。法人、地域住民の協力の下で、非常災害時の対策に熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月ユニット会議にてケアや接遇に関する話し合いを持ち、目標を設定し、行動、評価、見直しを行っている。	ドアはノックや声をかけて入室する、排泄の声かけは、周りにそれと悟られることのないよう気をつけるなど、基本的なことから、楽しい会話や、レクレーション時の話し方でも、尊厳を損なうことのないように丁寧な言葉遣いに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自分の思いを本人の言葉で表現して頂ける様に努めている。「待つ」ケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりとゆっくり話すことで、本人がどのように過ごしたいのかを聞いている。そして希望に沿えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪切り、寝ぐせや眼脂等、起床時の混雑時に出来ていない事があった。他の時間帯も利用して行うなど工夫が必要。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に因んだかたら団子や干し柿など、職員と一緒に準備、作ることが出来た。食後は、食器洗いや食器、お盆拭きなど協力を得ている。	調査の日は、小豆あんときなこのおはぎで季節感のある献立を利用者さんとともに手作りしていた。食事は職員もともに会食して、会話の弾む和やかでゆったりできるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要のある方には主食の計量やカロリー制限を行っている。食事・水分摂取量は毎食記録し、食事形態や好みの飲み物を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の声掛けにより口腔ケアの習慣化が出来た利用者がいる。継続して行いたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのリズムに合わせて排泄への声掛けをしている。排便チェック表を活用し排泄パターンを知ることで、トイレで排泄が出来るように支援している。	入居後、2週間から1ヶ月程度で、排泄のパターンは把握できるという。その後は、トイレでの排泄を誘導している。状態によってはおむつやポータブルトイレを使用することもある。ホームのトイレは清潔で、排泄物の匂いはまったくない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みに飲食物を摂ってもらい、水分摂取量が1000～1500ccになるように心がけている。体操、レクリエーション等を行い、身体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある利用者に対し、拒否される理由を探る努力をしながら、声掛けの仕方やタイミングを考え、週2回の入浴に努めており改善傾向にある。	入浴は夕方行われており、浴後寝間着に着替える方もいる。動作の能力に応じて職員は介助しており、一人一人入るなど、プライバシーも護られている。楽しいお風呂になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態を把握しながら、日中なるべく活動してもらい安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、確認できるようになっている。服薬変更の際には状況の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	積極的に役割を求める利用者に対し、「なにができるか」を常にチームで考えている。パズルや塗り絵工作などを取り入れた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に散歩に行き、外の空気も味わってもらっている。今年度もコロナ禍で外出の機会や行けるところが限られたが、時間の許す限りドライブをした。家族や地域の方と関わる時間も限定された為、協力をお願いすることもなかった。	コロナ禍にあって、ある程度の制限はあるが、自然豊かなホーム周辺の散歩、食材や日用品、時には好みの洋服や趣味の品物などの買い物、観光やドライブなど、利用者さんが楽しめるように日常的に外出している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には自己管理していただき、可能でない方にも個人の財布は準備しているが、今年は使うことがなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には介助、見守りなどしながら電話してもらい、手紙等、自由にやり取りしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間について清潔を保てるようにこまめに掃除し、できた所にはチェックを入れている。エアコンの吹き出し口から風が直接体にあたらない様にしている。	ホーム全体に木をふんだんに使用した和洋折衷の建築であり、落ち着いた雰囲気がある。明るく清潔なホールの壁や棚には、季節の花や、利用者さんが楽しんで取り組んだ作品が飾られており、我が家、我がホームとしてのぬくもりがある。テラスに続く広大な芝生の庭でひなたぼっこやお茶会、畑園芸、軽運動をする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子、テーブルなどを配置している。利用者が気軽に利用されおり、日光浴や談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や見慣れた写真等持参して頂き、ここと良く過ごして頂ける様に工夫している。	床も壁にも木が使われ、落ち着いた室内は、プライベートにくつろぎ、自分の時間を楽しめよう、タンスや机・椅子に小物や壁飾りがされている。ひとりひとりの個性を尊重したしつらえになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて環境整備を行い、安全で自立した生活が送れるように対応している。		